

# 湯河原ロータリークラブ



## WEEKLY REPORT

### 世界へのプレゼント になろう

第 2625回 例会  
平成28年 3月18日 (金)  
天候 晴れ  
合唱 それでこそロータリー  
四つのテスト

会 長 佐藤 泰文

事務所 神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会内  
TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716

幹 事 山本 明峰

例会場 静岡県熱海市泉 107 ニューウェルシティ湯河原

TEL 0465(63)3721 FAX 0465(63)6401

例会日 毎週金曜日 12:30~13:30

#### 会長挨拶

暑さ寒さも彼岸までと、言われます。その彼岸を迎えました。

さて彼岸とは。彼岸は日本独特な宗教の修行行持です。古い記録では『日本後紀』大同元年(806)3月辛巳の条に「諸国の国分寺の僧をして春秋二仲月別七日に、『金剛般若経』を読みしむ」と出ています。心ならずも死することになった崇道天皇の無念を鎮めるためであったということです。それが徐々に世間に広まり、この一週間はとにかく善行を行い善い功德を積む期間として理解されるようになり、お寺参りやお墓参りを行うようになったと言われています。

「彼岸」という言葉は「彼方の岸」、つまり煩惱の激流である海の「此岸」から修行によって海を渡りきり、輪廻を超えた涅槃の境地に入ることを意味します。特に菩薩の修行には「六波羅蜜」と呼ばれる修行の種類があり、この「波羅蜜」の意味は「修行の完成」になり、それを表す意味の話が「彼岸到」とされます。したがって「波羅蜜」と「彼岸到」とは「修行の結果、行くことの出来る理想的な場所」です。その修行の完成を期する期間が彼岸会の一週間になります。「六波羅蜜」は、①布施(与える喜びを知る)、②持戒(してはいけないと思うことはしない)、③忍辱(感情に流されず辛抱強くものごとにあたる)④精進(するべきことに少しでも励む)、⑤禅定(心穏やかに過ごします)、⑥智慧(ものごとの道理を正しく、深く理解する)

それぞれ難しい修行になりますが、お寺に行って、墓地に行って、少しでも心を安らかにし、実践を目指して行く期間の春秋の一週間が『彼岸会』です。

#### 幹事報告

幹事報告 無し  
連絡事項 無し

#### スマイルBOX

結婚記念日 深澤昌光君(3/2)  
石倉幸久君 町議会議員選挙で当選しました。  
常盤章夫君 名札を間違えました。

会長挨拶



深澤会員およろこび



例会風景



出席報告	ゲスト 1名	ビジター 0名	会員 23名
	欠席 1(免除者 0名)		出席率 95.65%
	前回の修正出席率 85.71%		前々回の修正出席率 90.91%

事前メイクアップ 1名

ゲスト 伊場野雅代様

未来に向かって ICT 支援事業～教育部門～  
小倉 高代 君

まずはこちらの動画をご覧ください。  
ガラスが支える一日 2 : (解説付)  
<https://www.youtube.com/watch?v=nNAs1iJIjnY>  
「ガラスの一日」パート1もありますので、お時間あるときにご覧くださいませ。  
<https://www.youtube.com/watch?v=f40wYoykYDU>  
コーニングは、アメリカ・ニューヨーク州に本社を置く世界最大級のガラス製品メーカーであります。  
1851年にエイモリー・ホートンによって創立され、一族による経営が100年以上続いています。  
現在の主力製品は液晶ディスプレイ用ガラスパネル、望遠鏡ガラス、光ファイバーなどです。  
4年前にこの動画を見て、未来と言うより数年でこれがどんどん実現化するだろうと思っておりました。この映像の中でもございます、私の車もBluetooth機能が搭載されておりますカーオーディオなので、iPhone・iPadからBluetoothを経由して車のオーディオで音楽を聞いています。

ちょうど先週、多摩市の愛和小学校が「ICTを活用した言語活動を通して」というタイトルで公開授業を一般募集しており参加させて頂きました。

こちらの松田校長先生の思い入れはもの凄かったです。公立でしかも企業との連携も素晴らしいです。ご参考にまずは小学1年生の授業は図工の授業。iPadを一人1台使って、「SchoolTakt (スクールタクト)」というアプリを使っておりました。このアプリは、総務省先導的教育システム実証事業に採択10,000人以上のユーザーに利用されています。もう一クラスの1年生は、授業の科目が「プログラミング」。

Windows タブレットを使って一人1台。今流行の「Viscuit」というWEB上で使えるプログラミング。子どもたちが好きな絵を書いて見事にプログラムして楽しそうに動かしていました。小学2年生は音楽の授業。iPadを一人1台使って物語のストーリーをイメージして音を作曲してました。3年生も科目が「プログラミング」Chrome Bookを使ってやはりWEBでプログラミング出来る「Scratch」をやっていたり、今うちの子小学5年生もハマっている「マイクラフト」も同5年生の授業でも行っておりました。また、英語の授業もSkypeで現地先生とリアルタイムで話しているのも印象的でした。

沢山あって原稿に書ききれませんが、この小学校はマルチOS環境は

Windows タブレット、Windows PC、iPad、Chrome bookを使い、また企業の助成金などに申込み、パナソニック教育財団のICT教育と言う助成を受け、専門家の知識もお借りしながら地道に取り組んでおられました。

これが、「産学連携」とも言われる松田校長先生の「公立学校の新しい在り方」だとお話も頂きました。

小倉会員卓話



1995年携帯やスマホがなかった時代から昨年20年。2015年はロボット元年とも言われます。この先20年はどのような時代になるのか。

Michael Barber (マイケル・バーバー) 氏の「40年ギャップ説」  
今現在の子供を育てる親は20年前に自分が受けた昔の教育の概念を無自覚のうちに判断基準にしているけれど、実は本当に必要な教育政策は、その子たちが実社会で活躍する20年先を見据えたものであると。  
つまり、そこには本来必要とされるべき教育内容と、実は40年のギャップが生じてしまっている、ということだと思います。

一方、2015年は感情認識機能をもった家庭用ロボット「pepper」が市販され、人間社会の日常生活にロボットが当たり前のように交わってくる、初まりの年になります。

ここから20年後の2035年の超高度情報科学社会、スマート社会において、人々のライフスタイル、ワークスタイルは、一体どのように変化しているのでしょうか。マイケル・バーバー氏の「40年ギャップ説」が提示する深刻な問題意識に、私たちは全力で取り組むべき必要があるのではないのでしょうか。

—観術総合研究所 代表 内海昭徳—

私も子を持つ親として、深刻な問題。2020年度からはセンター試験が廃止。新試験「暗記から思考能力へ」と戦後初めての「教育改革」になって行きます。

世界においても2013年に「Hour of Code」というイベントが180カ国以上から数千万人の生徒が参加しています。オバマ大統領も参加されました。

お時間ある時に是非動画をご覧ください。  
<https://hourofcode.com/us/ja/promote/resources#videos>  
[https://www.youtube.com/watch?time\\_continue=16&v=6XvmhE1J9PY](https://www.youtube.com/watch?time_continue=16&v=6XvmhE1J9PY)

「携帯電話でただ遊ぶのをやめてプログラミングをしよう」  
—バラク・オバマ アメリカ合衆国大統領

21世紀を生きる全ての生徒が、世界を変えるテクノロジーを学ぶ機会を得るべきです。基本的なプログラミングを学ぶことで、発想力や問題解決力を高め、どんな仕事についたとしても必要なスキルを身につけることができます。私の教室もこの4月から「ロボットプログラミング教室」を開講します。

これからの未来に少しでも子どもたちに可能性を引き出しお役に立つ様、益々勉強しチャレンジ続けます。ご清聴有難うございました。